



農業、畜産業、食品産業に携わる皆様へ

燃料油や石油製品等の供給に関する 相談窓口を設置しました

農林水産省近畿農政局では、燃料油や石油製品等の供給に関する相談窓口を設置しています。
中東情勢の影響により、**燃料油や石油製品等の確保に不安がある場合は、お早めにご相談ください。**

燃料油や石油製品等のご相談はこちら

農業	近畿農政局 生産部 環境・技術課	kinki_shizai@maff.go.jp
畜産業	近畿農政局 生産部 畜産課	kinki_chikusan_info@maff.go.jp
食品産業	近畿農政局 経営・事業支援部 食品企業課	kinkishokuhin_info@maff.go.jp
その他	近畿農政局企画調整室	sekiyu_others_kinki@maff.go.jp

詳細はこちらのプレスリリースをご覧ください ▶
<https://www.maff.go.jp/kinki/press/kikaku/260331.html>



令和8年度農薬危害防止運動の実施について

農薬を使用する機会が増える6月から8月にかけて、農林水産省は、厚生労働省、環境省等と共同で、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理、環境への影響に配慮した農薬の使用等を推進する「農薬危害防止運動」を実施します。

本年度は、「**農薬使用前、周囲よく見て ラベル見て**」を運動のテーマと設定し、農薬ラベルの表示事項の遵守と周辺の環境への農薬の飛散防止を徹底することなどを重点的に指導します。

【実施期間】原則、令和8年6月1日（月）から8月31日（月）までの3カ月間

【実施主体】農林水産省、厚生労働省、環境省、都道府県、保健所設置市及び特別区が運動の実施主体です。また、農薬の使用現場においては、関係団体等が一体となって運動を推進します。

詳しくはこちら（農林水産省ウェブサイト）▶



「キラ☆」現場にて

伊丹空港すぐそこ いちご屋さん「そらと。」 ～ 品質にこだわる いちごづくり～



伊丹市でいちごを栽培する「そらと。」の松浦啓介さんにお話を伺いました。

～農業を始めたきっかけ～

幼い頃、農業に従事する父の姿を身近に見て育ちましたが、当時は農業を「大変な仕事」と捉えており、「おいしいと言ってもらえることがやりがい」という父の言葉を深く理解することはできませんでした。

大学卒業後、一般企業にて、すでに出来上がった仕組みを維持・改良していく仕事に携わる中で、自然と向き合い、ゼロから作物を育てていく農業の凄さに気づいたことがきっかけとなり、淡路島の農業法人に転職しました。

農業法人で経験を積むことにより、「おいしいものをつくりたい」という思いが、かつての父の言葉と重なり、地元伊丹での就農を決意しました。



【松浦 啓介さん】

～大切にしていること～

いちご栽培において何よりも大切にしているのが、「品質の高いものを生産する」という姿勢です。一定の品質を保つために環境制御型の機器を導入していますが、品質をさらに高めるためには、人の目で状態を見極め、判断し、妥協せずに手をかけていくことが欠かせません。日々データを分析しながら、機器に頼り過ぎず、品質第一の管理を続けています。こうして育てたいちごを通じて、「おいしい」と言ってもらえることが、次への原動力となっています。

また、伊丹で就農するにあたり、父が長年築いてきた地域との信頼を引き継ぎ、その信頼を大切にしながら日々の農業に向き合っています。



【採れたていちご】

～今後の展望～

品質の高いものをつくる姿勢を大切にしながら、農産物を生産している農業者の価値が高くなる農業を実現していきたいと考えています。

これからも、伊丹の地で人とのつながりを大切にしながら、農業に関わる人や栽培できる品目、ほ場を増やし、次の世代につないでいきます。



【たわわに実ったいちご】



公式ウェブサイト

Instagram
(公式) (南野直売所)

2026ひょうご就農希望者向けセミナー・相談会開催



農業に関心のある方や兵庫県で就農を検討している方を対象に「ひょうご就農希望者向けセミナー・相談会」が開催されます。

就農までのステップや心構え、先輩農業者の事例紹介などを行うセミナーのほか、県・市町、JA、農業法人等による個別ブースで、独立就農や雇用就農に関する相談も可能です。

【開催日時】 **参加費無料**
2026.6.21 (日) 10:00～15:30
神戸国際会館 9階 (受付開始9:45)

詳細・申込はこちら
(兵庫県ウェブサイト)

【インターネットでの事前申込制】
申込期限：2026年6月17日 (水)



農作業における熱中症対策を万全にしましょう

5月を迎え、今年も昨年以上の猛暑が予測されるところですが、令和6年の農作業死亡事故者数のうち、熱中症による死亡者は前年と比較すると22人増の59人となっています。また、熱中症警戒アラートが発表された5～9月の事故総数は52人増の184人と非常に多く、熱中症以外の作業の事故においても、夏場の高温による疲れなどが影響している可能性が考えられます。

熱中症予防① こまめに休憩し、水分・塩分補給をしましょう

水分補給には、カフェインが含まれていない水や麦茶、大量に汗をかいた後は、塩分・糖分を含むスポーツドリンクが最適。喉の渇きを感じる前にこまめな補給が大切です。また、日頃から睡眠など健康管理に気をつけておきましょう。

熱中症予防② 農作業の省力化・軽労化

単独での作業は避けて複数名で行う、帽子や空調服の着用、スマート農業技術(※)や農業サービス事業者の有効活用等を検討し、熱中症等による夏の農作業事故リスク低減に努めましょう。



【※例：ドローンによる農薬散布】



熱中症かな？と思ったときの応急措置

軽症のとき（めまい、手足がつる等）

風通しよく涼しい環境で休息、体を冷やして水分補給

中等症以上のとき（頭痛、嘔吐等）

躊躇せずに救急車を！衣服を脱がせて全身を急速冷却！

環境保全に配慮した農業に取り組む農家さんのご紹介

～継ぐのは、農業と地域の未来～

宍粟市で水稻、黒大豆の有機栽培を行う、73ファームの古野 篤史さんにお話を伺いました。

－就農したきっかけは？－

農業を営んでいた父親が他界した際、自身の転職を考えていたタイミングでもあったので、父親の後を継ぎ就農しました。



【皆木地区】

－大事にしていることは？－

残留農薬による人体への悪影響を心配せずに食べることができる高い安全性・安心感、本来の味わいを感じてもらえるよう、皆木地区で水稻と黒大豆の有機栽培に取り組んでいます。地区外では水稻の特別栽培をおこなっています。

肥料は地元の先輩の紹介で、地元で生産される豚糞有機肥料を使用しています。鶏糞に次ぐ栄養価があり、リン酸が豊富で有機肥料の中では分解が早く、黒大豆と相性が良いという実感があり、購入者からも味が良いと評価をいただいています。

また、地域ぐるみで獣害対策に取り組んでおり、大型の箱罫5基を集落に設置するほか、春と秋に電気柵の保守点検を行っています。過疎化・高齢化が進む地域ですので、気軽に相談や協力ができるよう、人とのつながりを大切にしています。



－今後の展望は？－

皆木地区外でも有機栽培による栽培品目を増やし、有機JAS認証の取得も検討しています。ゆくゆくは安定した経営基盤を構築し、地域の農業を担う後継者を育てたいと考えています。

簡単な経営概況

- 水稻3ha
- 黒大豆1ha
- 作業受託5ha

～地域の話～

～赤穂市から三つ葉の魅力お届けします～
なべしまファームカフェ「青とそよ風ノこち」



ゆっくり寛げる 1階席

三つ葉のガトーショコラと
三つ葉のジェラート



三つ葉もちのぜんざい

一番人気のメニューは、三つ葉のガトーショコラと三つ葉のジェラートのセット。「体が喜ぶ」料理を提供したいというこだわりから、甘さは控えめにしています。

最近では、カフェの来店にあわせて三つ葉を購入するお客様が増えてきました。

「料理の添え物」というイメージを持たれがちな三つ葉を、もっとたくさん味わってほしいという思いから、調理方法や保存方法をお客様に丁寧に伝えています。

今後は、月に1回、夜カフェの開催を予定しており、将来的には自家栽培の野菜を中心としたランチメニューの提供にも取り組んでいきたいと考えています。

(ランチと三つ葉もちのぜんざいの画像提供：なべしまファーム)

「青とそよ風ノこち」は、赤穂市で三つ葉などの葉物野菜を栽培している、なべしまファーム代表の鍋島晴美さんが「もっと三つ葉の魅力を伝えたい。」と2024年7月にオープンしたカフェです。



新たな挑戦を続ける
鍋島晴美さん

これまで培ってきた料理の腕前を活かし、三つ葉を使ったランチや各種スイーツを次々と開発し、提供しています。



インテリアにこだわった
2階席



Instagram

フェイスブック

営業日時：火曜日、土曜日 10:00～16:00

クビアカツヤカミキリの発生にご注意ください

サクラ、モモ、ウメなどの樹木に寄生する「クビアカツヤカミキリ」は、幼虫が樹木の中に入り込み、成虫になるまでの間、木の内部を食い荒らしてしまう外来種です。加害された木は衰弱してやがて枯れ、枝が落ちる、倒木など、人がけがをするおそれもあります。成虫の発生期は5月末～8月で、繁殖力が高く、放置すると大量に増えてしまうため、早期の発見と防除が重要になります。

【成虫を見つけたら駆除】

- 「踏みつぶす」「アルコール消毒液、洗剤などを入れた瓶に入れる」などその場で駆除
- 生きたまま持ち運ばない（外来生物法違反になります）

【フラス（木くず）が出ている木や成虫を発見したら】

- （幼虫が樹木に入り込むと大量のフラス（フンと木くずが混ざったもの）が排出される）
- お近くの自治体や関係行政機関にお知らせください。

近畿管内のクビアカツヤカミキリ情報はこちら▶



地方参事官ホットライン

農政に関するご相談、事業や制度へのご意見・ご質問などがございましたら、お気軽に地方参事官ホットラインまでお問い合わせ下さい。また、広報誌に対するご意見等もお待ちしています。

TEL : 078-331-5924 Email:hyogo28_hsatt_kinki@maff.go.jp